

『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」に見られる施者

象 本

1. 問題の所在

宝積部の第 12 經『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」の冒頭には次のような説示がある。

【梵本より和訳】ここで、布施波羅蜜多とは何か。さて、舍利弗よ。菩薩は諸沙門と婆羅門と貧者たちとの(śramaṇabrāhmaṇakṛpāṇām) 施者である¹⁾。

この説示からは本品で説かれる布施の施者は菩薩であることがわかる。では、ここで本品における施者として登場する菩薩はどのような特徴を持つ菩薩なのだろうか。本品における菩薩が在家菩薩なのか出家菩薩なのかといった問題の解決を目的として、本稿では、まず布施波羅蜜多品における施者の特徴を、その施物の分析を通じて検討してみたい。

2. 「布施波羅蜜多品」における施物の内容

『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」に説かれている施物の内容は次の通りである。

【梵本より和訳】すなわち、食物①を求める者たちに食物を〔布施し〕、飲物②を求める者たちに飲物を〔布施する〕。乗車③と、衣服④と、薰香⑤と、花環⑥と、塗香⑦と、住处⑧、器具⑨と、病気に対する良薬⑩と、灯⑪と、音楽⑫と、婢⑬と、僕(しもべ)⑭と、黄金⑮と、宝石⑯と、真珠⑰と、瑠璃⑱と、法螺貝⑲と、瑪瑙⑳と、珊瑚㉑から成り立つ一切の宝物と、馬㉒と、象㉓と、馬車㉔と、遊園㉕と、苦行林㉖と、息子㉗と、娘㉘と、妻㉙、及び財産㉚と、穀物を有する貯蔵㉛と、倉庫㉜と、四洲を支配する王の一切の富貴・安楽・一切の享楽・遊戯㉝、及び手㉞と、足㉟と、耳㊱、鼻㊲と、眼㊳と、頭㊴と、肉㊵と、血㊶と、髓㊷と、骨㊸を〔求める者たちにそれらを布施する〕²⁾。

以上が『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」に説かれる施物の内容である。ここで挙げられる施物を分類すれば、それは二種類しかない。すなわち、内財施と外財施

である（『菩提資糧論』巻第一、T32.519b2-29）。内財施とは「手と、足と、耳と、鼻と、眼と、頭と、肉と、血と、髓と、骨と」である。それ以外の施物はすべて外財施である。つまり、「布施波羅蜜多品」で説かれている布施は、世間の内外財施であると言えよう。

さて、この施物の内容の傾向について漢訳四阿含との比較検討から探ってみた。そこで四阿含に登場する施物の内容を整理し、『菩薩藏經』との対応関係を整理して表にまとめた。次の通りである³⁾。

漢訳四阿含中の施者と施物

経典	施者	施物	『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」の施物との対照
『雜阿含經』卷第22・592經	給孤獨長者	我當盡壽供養衣、被、飲、食、房舍、床臥、隨病湯藥。(T2.158b4-17)	㉔㉕㉖㉗
『雜阿含經』卷第23・604經	阿育王	今當施設供養於僧。(中略)然我先當供養佛念所覺菩提之前。香華、罽毘、伎樂；(T2.166b17-26)香湯、僧衣、四十億萬兩珍寶。(T2.170a28-c20)	㉔㉕㉖㉗、㉘㉙㉚
『雜阿含經』卷第36・999經	悉裨梨王	歲輸財物應入我者。分半入庫。即於彼處惠施作福。(T2.261c24-262a20)	内施と王權施以外の施物
『雜阿含經』卷第40・1106經	釋提桓因（人としての時）	行於順施沙門婆羅門、貧窮困苦求生行路乞。飲、食、錢財、衣、帛、華香、嚴具、床臥、燈明、衣、被。(T2.290c23-29)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝
『別記雜阿含經』卷第2・35經	帝釋（人としての時）	信心施於貧窮沙門婆羅門等。漿飲食、種種餅餌、種種華鬘、種種諸香、燒香塗香、財帛床榻。(T2.384c14-17)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚
『雜阿含經』卷第50・1326經	優婆塞	時一優婆塞。以衣布施迦羅比丘尼。復有優婆塞。以食供養。(T2.365b8-9)	㉔㉕
『佛說長阿含經』卷第3・遊行經第2	善見王	以道開化安慰民庶。園、池、漿、食、衣服、車、馬、香、華、財、寶。(T1.23a16-28)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
『佛說長阿含經』卷第3・遊行經第2後	末羅（末羅國人を稱する）	幢蓋、燒香、散花、伎樂供養佛。(T1.27c8-28a2)	㉔㉕㉖
『佛說長阿含經』卷第18・分世記經・轉輪聖王品第3	轉輪聖王	施諸窮乏、須食與食、須衣與衣、象馬寶乘。(T1.121b21-23)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝
『中阿含經』卷第14・67經	尼彌王	施諸窮乏沙門梵志貧窮孤獨遠來乞者。飲、食、衣、被、車乘、華鬘、散華、塗香、屋舍、床、褥、龍麝、綖繒、給使、明燈。(T1.514b11-13)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
『中阿含經』卷第44・鸚鵡經	男子、女人	施與沙門梵志貧窮孤獨遠來乞者。飲、食、衣、被、花鬘、塗香、屋舍、床榻、明燈、給使。(T1.705c23-25)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
『增一阿含經』卷第4・護心品第10・(3)	檀越施主	觀檀越主。能施師等（比丘）衣、被、飲、食、床榻、臥具、病瘦醫藥。是故諸比丘。當有慈心向彼檀越。小恩常不忘。況復大者。恒以慈心向彼檀越。(T2.564a27-b2)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
『增一阿含經』卷第4・護心品第10・(4)	阿那那持長者	諸比丘。隨所須物三衣、鉢、盂、鍼筒、尼師壇、衣帶、法羅羅、及餘一切沙門雜物。復於四城門而廣惠施。須食與食、須漿與漿、須車乘、妓樂、香熏、環珞。(T2.564c25-565a4)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
『增一阿含經』卷第12・三寶品第21・(10)	善男子、善女人	若有善男子善女人常念惠施。與沙門婆羅門諸貧賤者。須食者與食、須漿與漿、衣被、飲食、床敷、臥具、病瘦醫藥、舍宅、城郭。(T2.606c16-9)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
『增一阿含經』卷第19・四意斷品第26之除・(3)	毘羅摩（梵志）	龍珠、虎珀、神、瑪瑙、水精、琉璃、碎金、碎銀、金銀滿羅、牛、玉女、臥具、龍麝文綖裙、衣裳、龍象、馬、車、房舍、飲食、床、病瘦醫藥。(T2.644c6-20)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
『增一阿含經』卷第1・序品第1	菩薩	菩薩發意趣大乘（中略）諸有勇猛施項目、身體血肉無所惜、妻妾國財及男女、此名檀度不應棄(T2.550a12-16)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
『增一阿含經』卷第19・四意斷品第26之除・(5)	菩薩	菩薩惠施佛辟支佛下及凡人皆悉平均不選擇人。（中略）復次菩薩若惠施之時。頭、目、髓腦、國財、妻、子。歡喜惠施不生善想。(T2.645b8-10)	㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

以上、四阿含にあらわれる施物の内容を整理した。ここでまず注目すべき点は施者である。まず、『増一阿含經』以外の阿含では施者は常に王や長者や善男子といった在家信者が想定されていることは注目すべきであろう。一方で、『増一阿

含經』卷第一の「序品第一」と、卷第十九の「四意断品第二十六之余」第五經では菩薩が様々な布施を行う記述が確認できる。しかし、そこでの菩薩は妻・妾・子・男女・国財を施物として施す。つまり、ここでの菩薩は妻・妾・子・男女・国財を有する王や長者が想定されていることが読み取れる。つまり、ここでの菩薩は、出家の菩薩ではなく、在家の菩薩が意図されていることが見て取れよう。その上で、『菩薩藏經』との対応関係をみれば、『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」の菩薩も出家の菩薩ではなく、在家の菩薩が意識されている可能性が見出せる。

3. 世間財物を施すことの果報、布施による成仏の例示

次に、仏教一般では布施は二種類あるとする。即ち財施と法施である⁴⁾。しかし、『菩薩藏經』の「布施波羅蜜多品」では、財施のみが説かれている⁵⁾。つまり、『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」における布施波羅蜜多とは、世間財物の布施であるとも言える。では、何故、『菩薩藏經』では法施ではなく財施のみを述べるのであろうか。本章ではこの点について検討してみたい。

「布施波羅蜜多品」ではあらゆるところで世間財施を強調している。例えば、先に紹介した菩薩の施物の内容の直後に、次のような説示がある。

【梵本より和訳】乞い求める人たちに対して施さない世間財物は何も存在しない⁶⁾。

ここでは明らかに施物が世間財物に限定していることが見て取れよう。また、「布施波羅蜜多品」では世間財物を布施することが無上正等正菩提を求めて証得することと、あるいは仏果を得ることと直接的に関係するものとして説かれる。例えば次の通りである。

【梵本より和訳】舍利弗よ。深い智慧を持つ賢い菩薩は、世間財物によって、無上正等正菩提を求め、不死を求め、〔法の〕真髄を求め、完全な悟りを求める。また、舍利弗よ。それより、涅槃を求める菩薩は世間財物を布施して捨てることのない世俗のものは何も存在しない⁷⁾。

【梵本より和訳】舍利弗よ。時のあることと場合のあることが生じて、菩薩はまさしくこのようにその世間財物を頼って無上正等正菩提を証得するであろう⁸⁾。

ここでは、世間財物を施すことによって、無上正等正菩提が獲得できる旨が述べられる。また、次のような説示も認められる。次の通りである。

【梵本より和訳】舍利弗よ。まさしくそのように無上正等正菩提に依りて世間財物を施物

とする菩薩摩訶薩、彼には望まないままに轉輪王位を得、帝釈天性と梵天性も成就するであろう。そして、成就されたそれらの三つの勝事（sthāna）によって、十の菩薩地が成就され、十の如來力と四無畏が成就され、また、千の業によって生じられた十八不共佛法が成就され、また、千の業によって生じられた六十種類を具足した音の圓滿が成就され、また、百の業によって生じられた一つの大丈夫相が成就され、また、二百の業によって生じられた頭の頂にある螺髻〔相〕が成就され、〔また、〕百の相と功德を具足した如來の大法螺〔相〕が成就され、〔また、〕千百俱胝の相と功德を具足したのであり、欠落と隙間がないのであり、平らであり、白い齒の列が成就される⁹⁾。

ここでは、世間財物を施物することによって、十の菩薩地と、如來十力と、四無畏と、十八不共佛法と、六十種類の妙音と、大丈夫相と、螺髻相と、如來大法螺相と、如來の齒相である仏果を獲得できる旨が述べられる¹⁰⁾。

また、このような説示の後にさらに次のように説いて強調する。

【梵本より和訳】舍利弗よ、不死を求め、〔法の〕真髓を求め（sārapratikāṃkṣī）（藏訳本、惟淨訳共に存在しない）、菩提を求め（bodhipratikāṃkṣī）（惟淨訳では欠落）、涅槃を求める菩薩は世間財物を布施する。舍利弗よ、故に、このようにして、あなたは、次のように知るべきである。〔すなわち、〕菩薩は世間の財物を頼って無上正等正菩提を証する¹¹⁾。

ここにおいても、世間財物の布施によって無上正等正菩提を獲得できることが強調される。以上、いずれの用例においても世間財物の布施が強調されてきた。つまり、『菩薩藏經』では無上正等正菩提を獲得する大きな要因として世間財物の布施を想定していることが読み取れよう。

さて、『大智度論・積六度品第六十八之余』によれば、在家菩薩は「大富」の故に、諸波羅蜜多の中で、まずは布施を行ずるべきと述べる。それに対して出家菩薩は「無財」（T25.271b14-15）の故に、「財施」を除いた残りの諸波羅蜜多をすべて行ずるべきとある（T25.628b23-c1）。つまり財施が除外されたのが出家菩薩なのであり（T24.1036c12-14）、在家菩薩には財物の布施が想定されていることが読み取れよう¹²⁾。

また、『増一阿含經・慚愧品第十八』第三經にも「比丘、當念法施、勿學財施。」（T2.587c27-29）と説かれる。

また、「布施波羅蜜多品」には、布施による成仏の例示として、スートラチュナカ（Sūtracūṇaka）の説話が述べられている¹³⁾。スートラチュナカは紡織という仕事に従事している在家者である。彼は、バーンギーラシ如來（bhāṃgīraśi tathāgata）への糸（sūtra）の布施の功德によって、最終に、無上正等正菩提を證得して「善

摂受」(Susamgrhita) という名前の仏陀となった。つまり、「布施波羅蜜多品」に説かれている布施によって、成仏できる施者は在家者なのであり、これは在家菩薩のことであると言えよう¹⁴⁾。

4. 結び

以上、本稿では、『菩薩藏經』の「布施波羅蜜多品」の分析を通して、それにおける施者としての菩薩の属性を検討した。まず、「布施波羅蜜多品」に登場する施物を整理し、四阿含との対応関係から菩薩の属性を検討した。「布施波羅蜜多品」では財施が施物としてあらわれ、その内容には妻・妾・子・男女・国財なども含まれていた。そして、四阿含においてはこれらの財施はいずれも長者や王といった在家者が施す施物であった。つまり、「布施波羅蜜多品」での菩薩は、出家の菩薩ではなく、在家の菩薩が意図されていることが見て取れよう。また、本品では、世間財物の布施によって無上正等正菩提を獲得できることも強調されている。そして、その証明のために紡織者スートラチュナカが一縷の糸を繰り返して施し、無上正等正菩提を獲得する説話が述べられる。この説話こそ、在家菩薩が法施ではなく財施によって無上正等正菩提を獲得する事例として用いられていることが明らかになった。

以上のように本稿では『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」に登場する菩薩の属性を検討した。その結果、『菩薩藏經』「布施波羅蜜多品」に登場する菩薩は出家菩薩ではなく、在家菩薩であることを確認することができた。

1) 梵文写本 (MS58a3)；藏訳 (D Ga56a7, P Wi63b3, H (ラサ版) 151b5-6)；玄奘訳 (T11.239a6-10, 玄奘訳では-kṛpaṇa に相当する訳語が欠落している)；惟浄訳 (T11.822b15-16)。

2) 梵文写本 (MS58a3-5)；藏訳 (D Ga56a7-b3, P Wi63b4-7, H151b6-152a3)；玄奘訳 (T11.239a10-18)；惟浄訳 (T11.822b16-22)。

3) 本稿では、紙面の関係上、ニカーヤ資料を調査することを行わないが、杉本卓洲 [1988] によれば、*Nidānakathā* に見られた施者は、在家菩薩であることが分かる。

4) 阿含經典には、布施は財施と法施という二種類しか説かれない。例えば、『増一阿含經』卷第七・「有無品第十五」第三經 (T2.577b15-16) や、卷第九の「慚愧品第十八」第三經や、卷第十九の「四意断品第二十六之餘」や、卷第二十の「声聞品第二十八」第一經。また、大乘經典では、例えば、『大集經・無尽意菩薩品』(T13.203b26-27) や、玄奘訳『菩薩藏經』(T11.316a7-8) や、『大宝積經・優波離會第二十四』(T11.515c2-3) や、『優婆塞戒經・雜品之余』(T24.1059b15-20) 等。一方で、財施、法施、無畏施という三種類の布施が述べられることもある。このような類型を述べるのは鳩摩羅什訳『發菩提心經論・檀波羅蜜品第四』(T32.511a24-25) が初めてではないであろうか。今見てきたよう

- に、古層の資料には二施を説き、ある時点以後では三施が登場したと言えよう。
- 5) 本經「布施波羅蜜多品」では世間財物の布施のみが説かれているが、「布施波羅蜜多品」末尾の偈文では法施が言及される。brūhenti sada niṣkrāmo dharmaḍānaṃ dadanti ca | (MS60b6, 【訳】 彼らは常に出離を話し、法の布施を行う。)『菩薩藏經』の偈文は通常、本文の説かれた内容を簡潔にもう一度述べることが多い。しかし、法施に関しては本文中で言及されることはない。では何故、この本文に言及されない法施が偈文に登場するのであろうか。『大宝積經・優波離會第二十四』(T11.515c2-3)や『優婆塞戒經・雜品之余』(T24.1059b15-20)及び『優婆塞戒經・五戒品第二十二』(T24.1064b24-28)等の説示によるならば、在家菩薩が法施を行ってもなんら問題はないことが分かるであろう。
 - 6) 梵文写本 (MS58a5) ; 藏訳 (D Ga56b3, P Wi63b7, H152a3-4) ; 玄奘訳 (T11.239a18-20) ; 惟浄訳 (T11.822b22)。
 - 7) 梵文写本 (MS59b1-2) ; 藏訳 (D Ga59a1-2, P Wi66a6-8, H155b3-5) ; 玄奘訳 (T11.240b29-c7) ; 惟浄訳 (T11.823b28-c2)。
 - 8) 梵文写本 (MS59b3) ; 藏訳 (D Ga59a4, P Wi66b1-2, H156a1-2) ; 玄奘訳 (T11.240c11-13) ; 惟浄訳 (T11.823c8-11)。
 - 9) 梵文写本 (MS59b4-7) ; 藏訳 (D Ga59a5-b2, P Wi66b3-8, H156a3-b2) ; 玄奘訳 (T11.240c16-25) ; 惟浄訳 (T11.823c13-24)。
 - 10) 『増一阿含經・護心品第十』第三經には、「布施成佛道 三十二相具」(T2.564b16) というこれと類似する意味を持つ偈文がある。
 - 11) 梵文写本 (MS59b8-60a1) ; 藏訳 (D Ga59b5-6, P Wi67a3-5, H156b6-157a2) ; 玄奘訳 (T11.241a7-11) ; 惟浄訳 (T11.824a1-6)。
 - 12) 仏教には阿含經典から、出家者は法施をなし、在家者は財施をなすという一般的な形がある。『増一阿含經・有無品第十五』第三經 (T2.577b15-17) や、『大智度論・初品中迴向釈論第四十五』(T25.271b10-11) や、『大宝積經・郁伽長者會第十九』(T11.476c19) 等を参照されたい。
 - 13) 梵文写本 (MS60a1-7) ; 藏訳 (D Ga59b6-60b2, P Wi67a5-68a1, H157a2-158a3) ; 玄奘訳 (T11.241a12-b8) ; 惟浄訳 (T11.824a7-b2)。
 - 14) 布施のみによって、成仏できるかどうかは本稿の考察範囲ではない。但し『菩薩藏經』では、布施によって、成仏できると描くことで布施を強調していると理解できよう。

〈一次文献〉

Bodhisattvapiṭaka-sūtra (未出版, イェンス・ブロールビック (Jens Braarvig), 松田和信他校訂)

〈参考文献〉

- 香川真二 2005「教化者としての在家菩薩」『印度学仏教学研究』53(2): 632-635.
 加藤純一郎 2002「布施の変容について」『インド哲学仏教学研究』9: 41-52.
 袴谷憲昭 2005「出家菩薩と在家菩薩」『大乘仏教思想の研究 村中祐生先生古稀記念論文集』3-18.
 杉本卓郎 1988「パリー仏典に見られる菩薩」『パリー学仏教文化学』1: 97-120.
 平川彰 1991「初期大乘仏教における在家と出家」『仏教学』31: 1-39.

〈キーワード〉 菩薩藏經, 布施波羅蜜多, 在家菩薩

(中国佛学院専任講師, 博士(文学))